

**成年向**  
for adult only



**IM I U**





新しいのがもう見つかるなんて  
やっぱり幸運の女神が  
鎮守府に降臨しちゃってますー！

アキアキ  
自由の女神さま

わ、私  
ちよっとトイレ……！！

途中で漏らしちゃダメだよーw

SPECIAL \$4.5US

ARABIAN

アキアキ

アキアキ……

アキアキ

アキアキ

アキアキ





どうしてそんな  
エロ本拾ってくるのっ

おっ

おっ

捨てても  
捨てても

おっ

お

!



だって工廠裏にエロ本湧く  
スピードの方が速いんだもん

買ってきたエロ本はダメと  
しれえが言っていました！

エロ本見るのが  
ダメつってんのよ!!

ムツツリ  
よくない！  
よくないなー！

H本  
ロクがオト  
なんないわび

ききい

あほま

「まだ」？

ん！

トキヲノリ

ぽっ





お………



おちんちん部屋

おちんちん部屋



フッ

最近みんな  
おかしいわっ

カー

カー

カー



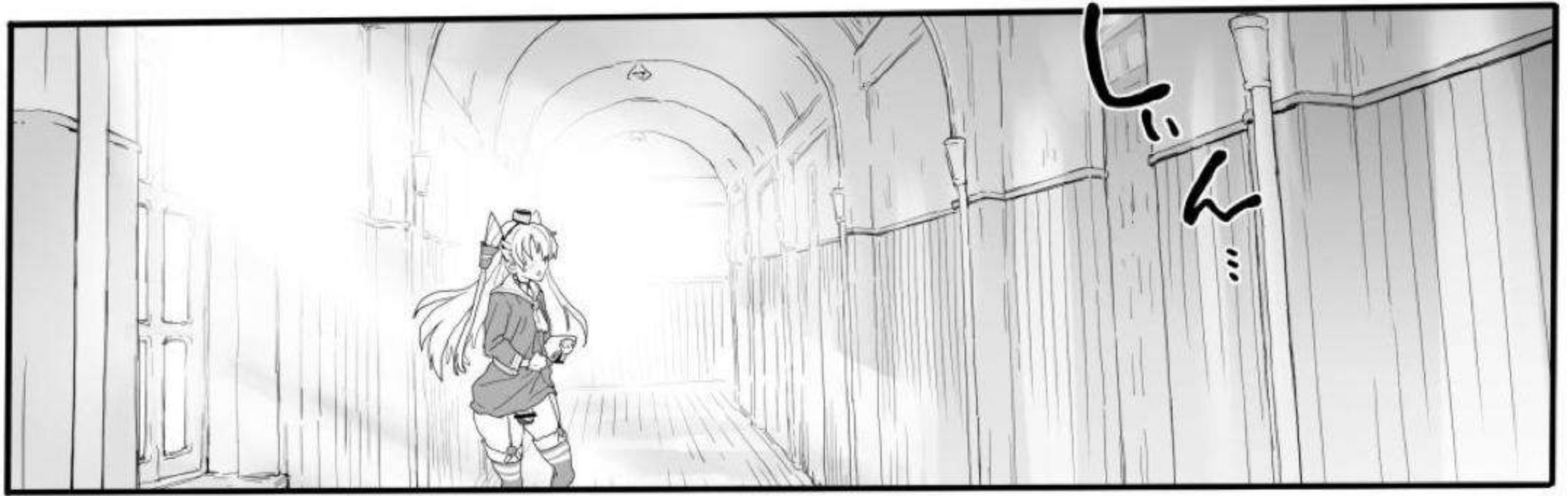
おちんちん弄って………

カー

おっ

暇さえあれば













わん

わん

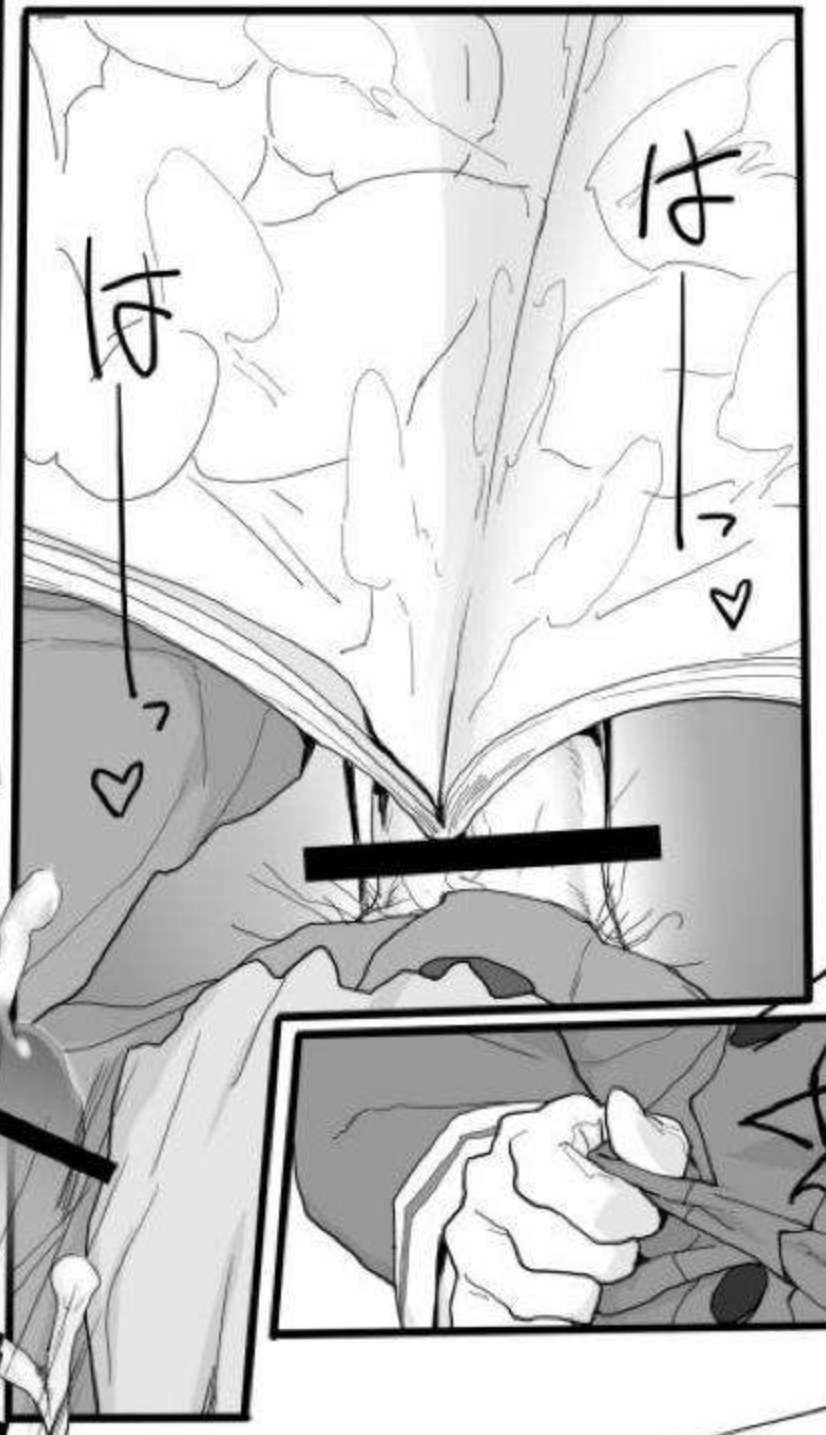
わん

わん

わん



あ...



あ...



あ...

「まだ」? W W W



まだ



まだ



ダメ

まだ



Hi  
アマツカゼ！！

キ



What's up ?







ごめんなさい

ちんぽ

ow, sorry ♪

もう、ダメ

?

ちんぽ

ドゥン ドゥン ドゥン ドゥン ドゥン

ドゥン ドゥン ドゥン

ドゥン ドゥン ドゥン

ドゥン ドゥン ドゥン

ドゥン ドゥン ドゥン





廊下で精通<sup>だ</sup>しちやう

ビ

マ

ル

ル

ム

キ

!





ごめんなさい

ごめんなさい



My...♡



Oh My...♡



とまらないのっ

Yes♡

Yes♡

Yes♡

Yes♡

Yes♡

Yes♡

Yes♡

Yes♡

Yes♡

Yes♡





ゴッ

射精っ

ゴッ

ガッ

ちんぽっ

こんなの我慢、  
できっ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ





ぐわんぐわん

できっない

ぐわんぐわん

ぐわんぐわん

ぐわんぐわん

ぐわんぐわん

ぐわんぐわん

ぐわんぐわん

ぐわんぐわん

お、お...

ぐわんぐわん



ねーねー  
しまかぜー

エロ本読み出すまで  
泳がすってたけど

だっ、だつて  
アイオワさんが  
こんな所くるって  
思わないもんっ

そーだけど、  
絶対アレ童貞喪失  
されちゃうってー

ンフ♪おねーさん、  
本気になっちゃった…♡

むううううっ  
認めませんからっ

こんないきいてないよー

おうっっ

アカーン  
!!!!





いいわっ♥  
一緒に思いっきり  
射精しましょ？

みんなであっ

ゴッ☆♀

ニハ

おっ

おっ





花な花な……

ニヤニヤ

アハハ

えへへーいちぼんだ♪

わく

うれしいうれしい！

①

②

③

④

最初はトキツカゼ？

OK♪

クチクカンのチンポ、  
ブチこんでっ ♡

んち

んち







すっごっ、これスゴいっっ♡

こんなムチムチに  
チンポ包まれてっ♡

もう、  
もうでるっ♡

暴発よくないっ  
よくないのになっ♡

でるっ♡  
せーえきでるよゆきかぜっ



ごっごめんなさい  
アイオワさんっっ

だばだ  
だばだ





ゆきかぜのチンポも  
おねがいますっ！

ゆっ



OW ♡

まだでてるっ ♡

まだっ





おチンチン、  
あんな...

だしたばかりなのに  
あんな、ギンギンして...!

アマツカゼ、  
また暴発しちゃうわよ?

わたし、絶対これ、

!! C'mon!

わん!





アハ★ステキよ  
アマツカゼ!

さっきの本のGuysは  
スゴいんじゃない?

濡れちやううつつ!!

やっ、  
ヤダ

だって、  
だってええっ!!!

Hardに  
なってるわア♥

ホラ★Meの  
中でどんどん





こんな破廉恥な事、  
みんなと  
一緒になんてええっ!!!

ぬっち  
ぬっち

ぬっち

天津風おっそーい!!

わたしもちゃんと  
ハメて射精したいのにいっ

Oh♥  
ハレンチwww



ダメなのこんな♥

ダメな駆逐艦に  
なっちゃうっつ



射精の事しか考えられなく  
なっちゃうっつ♥

おっ

ドク ドク ドク ドク ドク



OK,  
I see 💡

ば

ば

え？

お

の

ひた

は

は

っ

ん





ハレンチいーじゃない!

You, ポ付いてる  
艦娘でシヨ?







あまつかぜっ

SSR

やっ やっ やあああんっ

おうおうっ☆

もうこの際 天津風でもいいっっ



主砲同士で  
ガチファイト  
上等じゃない!

Youの主砲は  
演習用なの? www

おっ

おっ

おっ

おっ





しゅほお、  
どーしっ



しゅほお

**We are  
the fleet girls.**



始まった砲撃に



ぬっ

**何を躊躇うというの？**



**This is not a drill !**



**REPEAT!**



しゅほおスゴイっ

しゅほおどーしスゴイっ

YESッ☆

しゅほおすきっ♡

アッ  
アッ  
アッ

ぬっ  
あ  
ゆ

YESッ☆

ぬるぬるでっ  
ぬるぬるでっ

あ  
あ  
あ

ちんぽっ♡

ちっ

グ  
グ  
グ  
グ  
グ  
グ

YESッ☆

あたしのチンポと  
時津風のチンポっ

チンポ同士すきっ

SN2  
SN2



**NOT A**

**This**

**DRILL!!!**

でちやう、  
チンポでっ

チンポと  
チンポでえっ☆







**HAVE**

**WE**

**THE**

**CANNON!!!**









Battleshipが  
オナニーだなんて、  
冗談じゃないワ…♡





こんな本を拾って  
手淫に耽るなどって

はっ、  
ハレンチですっ

しゅわっ

なによ  
「まだ」のくせだ

「まだ」とは何ですか

あら

おーおーおー



まさかしてきますからっ

お

とどかっ

んん





サラ...  
早く着任しないと、

Meがみーんな  
食べちゃうワよ?

**FIN**





◎あとかき◎

此の度は「MIJ」をお買い上げ頂き  
まことにありがとうございます。

はじめまして妖怪ネリチャギ婆と申します。  
夜道で踵落しを空振り、そのまま肥溜めに沈む者です。  
今回データ版として、会場配布を予定していたコピー誌を合併させて頂きました。

この先は徒然なるラクガキとキモいSS、  
さらには複根ふたなり+乳首陰莖化の  
オンパレードとなっておりますので、これらに抵抗がある方は  
ページを進めることなくウィンドウを閉じられる事をお勧めします。

大丈夫という方は同志です。  
一緒に肥溜めに浸かりましょう。

ダブルネリチャギしてもひとり。

# 肥溜め





今日の面子は、ビーバーにムッツリスケベそれから  
緩急マイペース二人およびジャイアニズム。  
毎度なんともバリエーション豊かな顔ぶれだが、  
彼女達のスカートの内側から押し上げるモノに  
その主張は確固として統一されている事が見て取れる。  
忙殺の文字通り殺人的デスクワークに赤疲労の毎日とはいえ、  
艦娘への直接夜戦指導は提督業務であり、漢の体力に於いて別枠だ。

「しれえ！おつかれさまです！」  
仕事の上がる頃を待ち構えていたのだろう、  
最後の書類を終えて大あくびを漏らした途端、  
ノックもそこそこに本日の“指導”希望者連中が乗り込んできた。

執務室におしかけた五人分の体温と年頃の娘特有の香り、  
そして“指導”への期待に滾る艦娘達から滲む精臭にあてられ  
早くも臨戦態勢を取る自分の主砲が誇らしい。  
私は確認していた右手の書類を決裁済みの箱に放り込み、  
愛らしくも小やかましい任務娘への免罪符とする。  
あとは我がスラックスの砲門を開き、  
眼前にひしめく彼女等の主張に呼応し快哉を叫ぶまで。





「しれえー、はやくしないとしまかぜがまたもらしちゃうよー」  
「アー、スイマセンネ」「そっ、そんなことない、もんっ」  
見れば制服のスカート前にじっとりと粘液の染みが広がり、  
寸刻の猶予もない事は明らかだった。  
乙女達が羞恥と射精欲をあてつけ合うのにありがたく急かされ  
私はいそいそと禪に手を掛ける。  
「あ、あなた——っ」「おう、ううっ☆」  
解禁のサインに彼女達の理性が決壊したのだろう、  
それぞれの陰部ギリギリまで詰められた寸法の制服が限界に達し、  
辛うじてその先端を隠していた布との間に粘つく汁の糸を引きながら  
ぶると音を立てて艦娘のチンポが放り出された。

——当該鎮守府ノ艦娘総員両性具有ナレバ、其ノ情動及ビ性欲ニ対シ充分ナル鎮撫ヲ  
“逐電”した前任者の後釜に据えられるにあたって上層部からの通達を思い出す。  
股間に隔根そそり立つ女にさえ性欲を滾らせ、  
彼女等に劣らぬ精力と巨根を併せ持つ怪物でなくては成程、  
この司令官を務めることなどできはしまい。  
さて今夜はどうしてくれよう。  
ふと目が合ったアメリカ戦艦がここぞとしなを作る。  
「FROTAGE,PLEASE☆」  
なんと、前任者はそんなことも満足にしてやらなかったのか。  
このオーク提督をして憤慨せずにはおられぬぞ。





(▼)

銀の輝き乗せた手を取り  
改めて二人分の抽送をおこなう。  
陰囊同士が水音をはじけさせてぶつかりあい  
龟头と龟头がラバーのエンゲージリングに結ばれて  
妻の爆乳の間に潜り込んだ。  
執務の折々投げかけて貰った彼女の口癖を  
今度は夫として私から送ろう。  
オークより愛を込めて  
「ヨクデキマシタ——」

乳房の谷間から私の指より太い一条の精液が噴き出し、  
霧島の顔を濡った膜となってたぷりと覆った。  
パイズリと射精する女との兜合わせを同時に浴びて  
私のペニスも妻に做う。

私は雁エラの下に嵌めたラバーリングを引っ張り隙間を作る。  
ケッコン(カリ)にあたって特注で作った代物だ。  
霧島は羞恥と発情の混じった目で私を瞬ねめつけると  
みるみる勃起する怒張からコンドームをむしり取り、  
野太い血管を脈打たせていなく女のチンポをそこに捻じ込んできた。  
彼女の生龟头がはちきれそうな強張りとな熱、  
既に溢れかえっていたドロドロの先走り汁を纏わせて私の陰茎を這いずり回り、  
鍛え上げられた筋肉にゆすりたてられるタツプリ脂肪の乗った尻の震えが  
女戦艦の巨根にこね回される私の龟头へと肉欲の質量を伝えてくる。

明石の開発による超柔軟ラバー且つオークサイズの特別仕様とはいえ  
海防艦の腕ほどもある私と彼女の巨根二本を受け入れるには狭すぎるのだが、  
霧島は射精衝動のまま腰の勢いを緩めない。  
女の龟头の漲りとその鈴口が繰り返す雁エラへのキスが  
リングの締め付けと共に尿道へと精液を汲み上げさせる。  
何度かの唸喊を繰り返した後、  
射精と見まごう粘液をしぶかせて  
霧島の先端はトンネルの反対側へ飛び出し、  
解ける事のない紐帯の中、山葡萄色になるほど充血した肉傘で  
私の龟头を抱擁した。  
「はっしゃ、きよか、許可を、司令っ」  
射精を齎す核心部位同士をひたすら捏ねあわし続け  
普通のフタナリならばとっくに精を漏らしている状況で、  
なお霧島は艦娘であろうとする。だがそれでは駄目なのだ。  
「司令デハナクテ」  
私は指輪を彼女の左手に近づけた。  
今夜の直接指導の真意を悟った霧島は薬指を立て  
「射精させて——アナタ」

(▲)







「司令！増設機銃配備の拡充をしましょう！！」

霧島がメガネを煌々と光らせまくってた。

息抜きに茶を頼めばこのザマである。「なにを飯から棒に」

まあコイツに限らず今に始まった事ではないが、とかくこの鎮守府の連中は自分の要求を通すのに手順や段階を踏まない。

「チンポ乳首のJK航巡って見たくありませんか？見たいですよ！」「俺、タバコ吸ってくる」

は？増設機銃=チンポ乳首ってなに？こういう場合は一度間を置くに限るといふか逃げたい。

「ここでいいじゃないですか」「外で吸うわ」「おともします」「ちょっと一人で泣かせて」

「鹵獲後改修した浮遊要塞で試験した結果が凄いですってば！！」

うまく撒いて身を潜めたつもりだったが、便所個室の扉下からメガネのブーツが仁王立ちしているの見える。

パニックルームが欲しいなあ…主にコイツから身を守るための。てゆーか、

「あ、敵の武装は男性器に換装済みです明石が」「え？試験、した？」「当然です。データも無しに進言などいたしません」

「いや、なんでちんこはやすん」「生やさないと性能試験になりませんよ」「タコヤキの？」「すずくまの乳首の

ピンク髪だけが淫乱キャラの絶対条件ではない。というか非常識変態キャラにはむしろ黒髪ショートボブにメガネが必要だ。

「それで申し訳ありません、余剰の増設スロットを使用しました」「余ってたんじゃねえ貯めてたんだばかやろう；；；」

「えええええっ私は何ということをしてしまったんでしょう司令ここを開けてください是非直にお詫びを」

「サル芝居やめろあけるなあけたらめえ刺すぞ；；；；；；；」「いれさせてっさきっぽだけでいいからっ」

実際には数分だったのだが、戦艦の力で何度もこちらに向かって挑むアルミ張りの板を全身で抑える死闘は何時間にも思えた。

やっぱり軍事施設ってなんでも頑丈に出来てて頼もしいや。できれば対霧島パニックルームも欲しいな。

「すみません、ちょっと取り乱しました」「うん、僕も乱暴な口きいてごめんてゆーか君の俸給から天引きね」

「からだでっ、司令ここ開けてください、体で支払いますからっ」「てめえふざけんなおかあさああんん；；；；；；；」

「まあ、聞いて下さい。司令にだって、メリット、あるんですよ」「ゾー」

どうやらスタミナが切れたようで、霧島は荒い息をつきながら背中でドアに凭れかかった。

「何だかんだ言って司令は私たちの、その一、ナニをケアして下さるじゃないですか」「あー、」

「でも原理的に一対約二百ですよ？私たち風俗行けませんし」「そうな」

「故に私たちのブリーフィング機会拡大及び品質向上と、司令の負担軽減を企図して実験を敢行したのです」「…そうか」

敵の自律兵器とはいえ突然チンコつけられて気の毒かなとも思ったが、

結局よく分からない存在だし、港湾棲姫から怒られないのなら大丈夫なんだろう。

「実際、模擬対空戦にあたって『チョーイイ』と」「鈴谷が？」

「いえ、タコヤキが」「鈴谷は？」「ヤバイ超イイ、と」「…さよけ」

実際最上型の装備増強は決定事項だったし、まあ、霧島的に俺への善意みたいな部分も含まれなくもないのかもしれないのかも。

JKどもの乳首に関してはもうフタナリ鎮守府への配属を受諾した俺の負けだ。

つーか、増設機銃とチンポ乳首がイコールで結ばれる理屈についてはまだ納得していないが、

なにせよ、このまま一生便所に籠るわけにもいかない。メガネも落ち着いたようなので穏便に済ますとしよう。

「わかったよ今回はスルーしてやるよ」「あ、ありがと、ございます、しれいっ」

扉をみちみちと軋ませながら娑婆に出る。ありがとう扉さん俺を守ってくれて。

「っつに加減しろっつの霧島…？」

そこには、仰角ぎちぎちに股間の主砲を振り上げた金剛型四番艦がいた。間違いなく51cm砲を超える先端をひくつかせ、

既に先走り汁を自身の上半体いっぱいぶちまけたその姿に、俺は思わず後ずさった。

「…なにそれ(蒼白)」「あ、私の対空性もついでにやっとききましたw改修でwww」

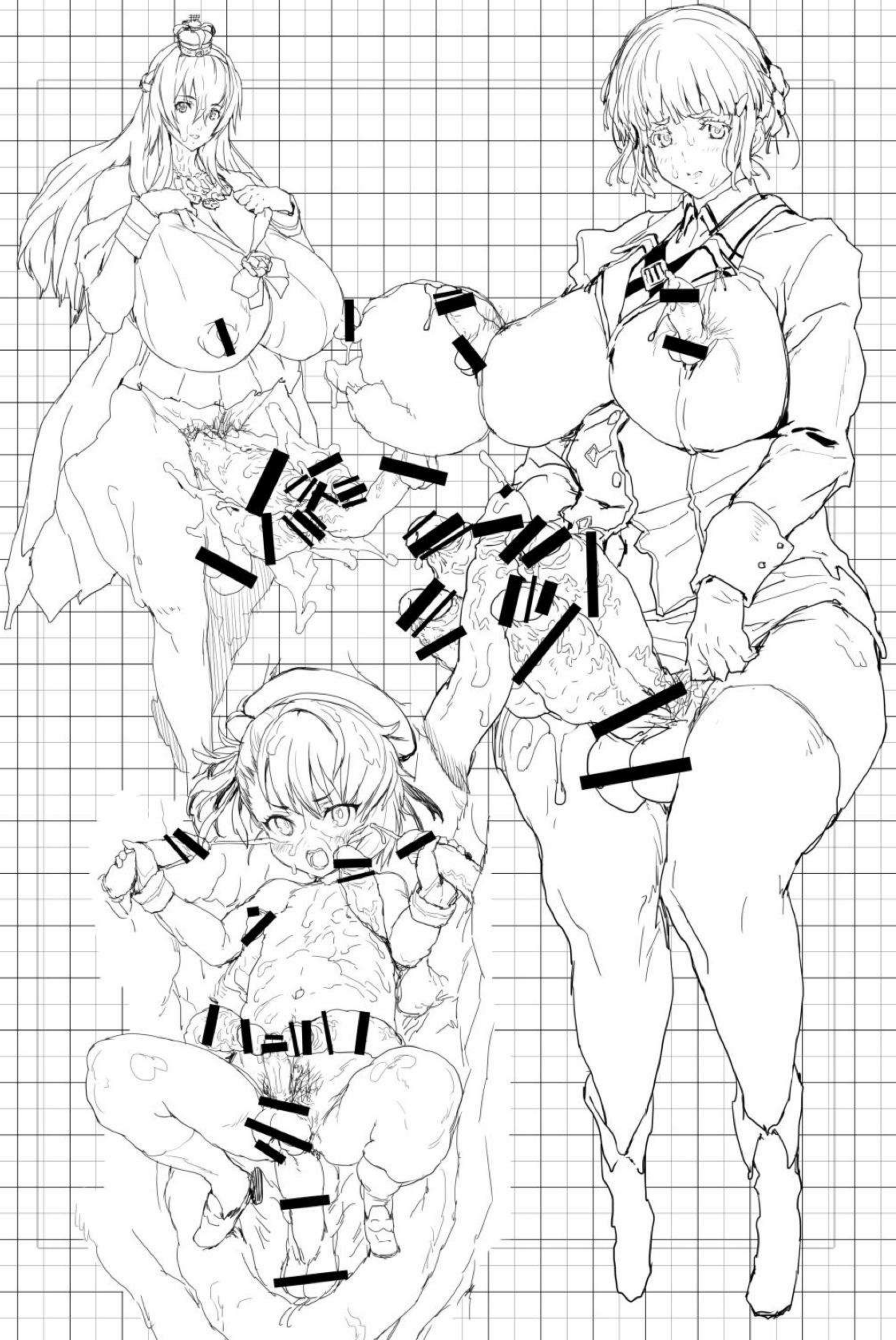
「あと二人の演習思い出したら」

踵が突き当たり、ふたたび便座に腰掛けた俺の視界で、メガネをかけた鬼がゆらり、ゆらりと近づいてくる。

「私も催してしまいましたwww.wwww.wwww」

精も根も果てた様に最後のネジが飛び、扉がドドンと床に落ちて









「あら」今日の提督は随分期待できそうじゃない  
「ひさしぶりに骨のありそうな方達です！」

屈強な男が陸奥を背後から組み敷くように大浴場の床へ這わせた。  
その数歩離れた横では、太った男が寝そべった雪風に寄り添い、彼女を誘うように陰茎を扱きだす。  
司令官が頻繁に入れ替わるフタナリ鎮守府では、  
適任者の選定をもちや艦娘自身で行うようになっており、  
この日も試験会場と殴り書きの貼られた引き戸の向こうで  
戦艦と駆逐艦の複合視点による審査が始まっていた。

「ふわあ…！あたしのちんぽで先ズリしてくれるなんて感激です！」  
雪風は満面に笑顔を浮かべて相手を見返ると「がんばります！」の一声を発し  
艦娘としてはかなり小さいがしかし、戦意に満ち満ちた彼女の主砲で男と砲火を交え出す。  
太腿越しの間合いで12.7cm砲の先端に届く男の陰茎を  
雪風はその短すぎるスカートで包み、陰囊を丸出しに龟头同士をこね合わせる。  
刹那“びちゅ”という水音が上がり、白い布地は下から二つの肉季の色を透かしてみせた。  
「うあ、あ、熱いです☆しれえのせーえき、ゆきかぜのちんぽ、ねちゃねちゃって」  
龟头に零距离の射精を受け、雪風は早々に屈服する。「もっと、しれえ！もっとかけてっ！！」



「あらあらw雪風はもう認定なのねw」  
男は戦艦娘の巨尻に腰を打ちつけながら、交合の穴二つのいずれにも挿入せず、  
揺すりたてる女の陰囊に龟头を埋め、その肉圧で射精していた。  
すでに数度の絶頂で広がった大量の精液だまりに、振りたてられる陸奥の陰茎が何度も浸かり  
彼女の巨根は男の精液まみれである。  
「く、ふうっ、とんでもない逸材じゃない☆」  
見れば審査待ちの残り二名の足元にも、フタナリへの視線だけで何度も達した水溜りがあり、  
いまも射精を繰り返しながら屹立する男根を扱き続けている。  
「いいわっ全員っ全員合格よっ☆おねえさんがまとめてしてあげるっ」  
志望者改め『提督』二人が更に昂ぶった肉筒を扱きながら膝立ちで殺到し、  
床に手をつく戦艦娘の眼前に腰を突き出す。  
歓喜の咆哮とともに打ち出された二本の粘液が女の唇と鼻筋の上で交じり合い、  
一人の射精であればその勢いのまま顔の反対側へ抜けるだけだった精液の筋を、  
まるでそれ自身が生殖本能を持ったアメーバの様な粘る膜に変えて  
陸奥の顔を犯し抜いた。  
「大淀っ、見てる？第42回選考、採用、四名い、い、いくいくいく、きもちいいいいいっっ」

音声と同時に、観察記録用のハンディカム真正面で陸奥の龟头が膨らみ、  
黄ばんだ精液が指ほどの太さに尿道を開いて発射された次の瞬間  
通信が途絶した。





「どこみてんのさ〜ん〜？」

左右で男根を扱く男達の視線が自分の龟头を舐め回していることに気づき、

半鷹はガニ股に腰掛けた小便器の上で身をくねらせた。

軽空母とは思えない巨根の先を、男の龟头に肉薄させ腰を振る。

「っつに、あたしの自慢はおっぱいなのにさぁw」

そう言ってやはり到底軽空母のモノではない爆乳を、

むりやり覆っていたシャツの中から放り出す。

興奮で脈打つ男達の視界に、

陰囊を備えるほど改修を施された乳首の陰茎がそそり立ち

理性を轟沈せしむる白濁した決定打を放った。

左右同時に龟头を突き出した男達は

鈴口で半鷹の雁エラをねぶりたてながら射精する。

痰のような精液が

艦娘特有のぷっくりと開いたピンクの肉傘に絡みつき、

その粘つきそのものの劣情を塗り重ねてやまない。

半鷹の巨大な陰茎と陰囊が黄ばんだ汚液で完全にコーティングされ、

その下の小便器が詰まってもなお、男達は軽空母最凶の体を蹂躪し続けた。

いまや酒ではなく射精の快感に酔い痴れる半鷹は、  
この二人と久しぶりに“はしご”出来そうな期待を  
試験会場のカメラに向けピースサインで示す。

「おーよどお、てえ、てーとくが、ふたりだよっつ」

猛烈な射精がレンズを直撃し、一瞬モニターが真っ白になった。



「——もっと多人数モノで。は、まるゆ、ですか。お任せください」

ひとしきり通信室の宙に頭を下げたのち受話器を置いた任務娘は、

幾つかが暗転するなか、白濁した粘液が何度も逆レンズウォッシュするモニター群を見渡しにやりと口をゆがめた。

提督一使い捨て一の回転率と彼女の利益は比例するのだ。



どうもおつかれさまでした。  
見返すとなんかもう  
兜合わせばかりですね。  
まあしかし、  
元から頭よくないうえに  
オナニスト感覚の暴走で  
イミフなSSだらけに  
なっていました。  
ラフ絵もあいまってまさに乱文乱筆、  
どうかお許してください。

次はもうちょっといいの生やします。

妖怪ネリチャギ婆 拜





# WILL



●奥付●  
発行 あしぼらい  
著者 妖怪ネリチャギ婆  
発行日 2020年11月1日

- 18歳未満の購入・閲覧を禁じます。
- 内容の一部または全部を無断で複製・転載する事を禁じます。